

東京土建一般労働組合
東京都新宿区北新宿1-8-16
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
ホームページ
http://www.tokyo-doken.or.jp/



定価 五十円
(年間購読料 千八百円)
購読料は組合費のなかに含まれています

けんせつ

印刷部数 107,200部 発行人・編集人 吉川 豊

怒りをチカラに
思いをカタチに
要求実現アクションと銘打
つて、2月より大集会、大
習会に取り組みながら「選挙
に行こう」と呼びかけてきま
した。4月23日は統一地方選
挙・後半戦の投票日です。
(8面に関連記事)

春の拡大月間 すべての仲間の団結で 年間増勢の土台作ろう

春の拡大月間がはじま
りました。仲間の紹介か
ら組織を大きくする取り
組みです。5月末までに
組織人員の3・5%以上
の到達を目指します。



第1回中央執行委員会でのダルマの目入れ、左
から檜山組織部長、中宿書記次長、小番書記長

総力集めて組合を大きく

本部組織部長・檜山剛志

仲間のみなさん、春の拡大月間の成功に向け、連日のご奮闘に心から感謝を申し上げます。

この春の拡大月間は、組織減少にストップをかけ、年間増勢の土台をつくる大事な期間となります。また、コロナ前の本来の組織活動に取り戻すべく、対面による対話を重視し、月間意義を大勢の仲間に伝え切り、アスベスト対策や働き方改革、インボイスの実態などを仲間知らせ、状況をつかむなかで、仲間とのつながりを強化し、組合に入っていない未加入者の紹介につなげていきます。

東京土建は労働組合として、この春の拡大月間は、組織減少にストップをかけ、年間増勢の土台をつくる大事な期間となります。また、コロナ前の本来の組織活動に取り戻すべく、対面による対話を重視し、月間意義を大勢の仲間に伝え切り、アスベスト対策や働き方改革、インボイスの実態などを仲間知らせ、状況をつかむなかで、仲間とのつながりを強化し、組合に入っていない未加入者の紹介につなげていきます。

東京土建は労働組合として

分会より力強い決意表明 「達成すでに見えてる」 三鷹武蔵野



春の拡大活動者会議にてガンバロー

三鷹武蔵野支部書記・三澤克己通信員「三鷹武蔵野支部では4月1日に三鷹市公会堂さんさん館にて「春の拡大活動者会議」を開催しました。全体で42人が参加しました。はじめに本部の中宿書記次長を講師に迎え「産業・地域の運動と基礎組織が東京土建の力」と題して学習会を行いました。

中宿さんからは「コロナ禍から資材高騰・材料不足と様々な困難の中で『建設アクション』として仲間の相談に乗ってきたことで、あらためて分会・群といった基礎組織の重要性が明らかになってきた。自治体の要求実現のため

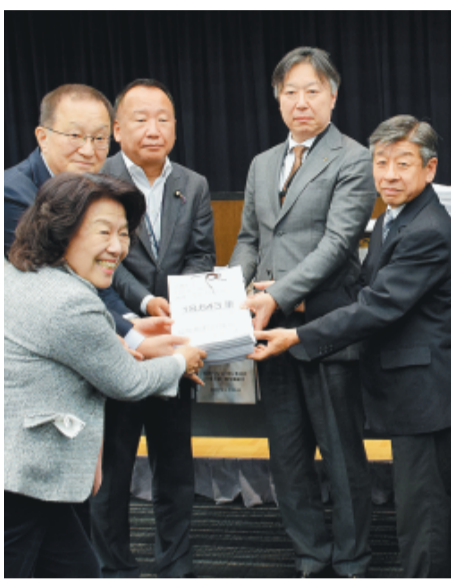
の仕事と暮らしの要求を聞き取り、統一地方選挙の投票を呼び掛けていきましょう。仲間の声と、月間で大きくした組織の力を結び、数を力に要求を実現していきます。

そのためには目標と実増にこだわり抜き、運動を通して、組合の青年後継者の協力者を増やし、組織総力戦で運動を展開していきましょう。

にも、この拡大月間で分会・群の運動・活性化が大切」と語っていただきました。

次に、高橋組織部長から春の拡大月間に向けて「この間の組織減少に何としても歯止めをかけ、目標達成で大幅な実増を勝ちとろう。そのためには『仕事と暮らしのアンケート』を使って対話を繰り返す。

建設アクションで国会へ 10万超の声を届ける



国会議員に署名を手渡す中村委員長(右から2人目、写真上) / 積み上げられた署名(同下)

4月10日、参議院議員会館で、東京土建などで作る建設アクション実行委員会(アクション実行委)は「消費税率の引き下げとインボイス制度の導入中止、物価高騰対策を求める要請書名提出集会」を開き、7県連組合から153人が結集しました。

積み上げられた10万7539筆の署名を前に、中村隆幸東京土建委員長が開会あいさつ。「物価高騰が止まらない。建設資材では200%値上がりという品目もあり、また生活必需品の5000品目以上が値上がりしている。建設従事者の賃金も上がっていない

このような中で、インボイスが導入されればひとたまりもない。建設業者の倒産も急増している。今日の集会で「きびしい現状をぶつけていきたい」と話しました。

来賓の西雅史全建総連税対部長、堀井晶東京都連書記長のあいさつ、アクション実行委の構成組合からの取り組み報告を受けながら、開会中の国会から合間をぬって駆けつけた岩淵友、田村貴昭、笠井亮、仁比聡平(以上、共産)、阿部知子、田嶋要(以上、立民)、大島九州男(れいわ)の各議員から連帯のあいさつを受け、署名を手渡しました。

三鷹武蔵野支部書記・三澤克己通信員「三鷹武蔵野支部では4月1日に三鷹市公会堂さんさん館にて「春の拡大活動者会議」を開催しました。全体で42人が参加しました。はじめに本部の中宿書記次長を講師に迎え「産業・地域の運動と基礎組織が東京土建の力」と題して学習会を行いました。

中宿さんからは「コロナ禍から資材高騰・材料不足と様々な困難の中で『建設アクション』として仲間の相談に乗ってきたことで、あらためて分会・群といった基礎組織の重要性が明らかになってきた。自治体の要求実現のため

朝やけ FIRE (ファイア)と 呼ばれる新たな ライフスタイル を目指す動きが 若者を中心に広がっている という。FIREとはファイ アインシャル、インディ ペンダンス、リタイア、ア リーの英語の頭文字で、経 済的自立、早期退職の意。N HKのクローズアップ現代 が「働く意味とは何か」と 問いかけて特集していた。

■例えば、5000万円を貯めて、株式や不動産に投資して年間200万円の利息でつまずく暮らしをすれば、FIREを「達成」する。何も良い暮らしをしたくない、働かない暮らしを目指すのだという。その動機の一つとして語られていたのが、職場でのパワハラや長時間労働などを理由とした、働くことへの絶望だ。

■仕事に耐え、エアコンもつけずにコトコト貯めて、投資に回す。働くことからの解放をひたすら願う、労働、節約、投資を繰り返す。何年か。転職のリスクも考えれば、今を乗り切る最善策との判断なのだろうか。あまりにも生きづらい、悲しい現状だ。

■働きたい、労働者が人としてきちんと尊重される環境が必要だ。労働組合が強くなることで、それは実現できる。力を合わせればそんなに難しいことじゃない。春の拡大月間で、みんな声かけ合って仲間をふやそう。